

白石地区 地域づくり 協議会だより

白石地区地域づくり協議会

〒753-0046
山口市本町1-1-25
白石地域交流センター内
TEL 083-941-5959
FAX 083-941-5966



<http://www.y-shiraishi.net/>
携帯・スマホからは上のQRコードでアクセス!



交流センターのはなみずぎ(撮影/中村誠)

2019年4月1日号 Vol.69

新年度にあたって

地域の皆様には、平素から白石地区地域づくり協議会(以下協議会という)の活動にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

協議会の活動もお陰様で発足から10年が経過しました。ここで改めて協議会の役割についてご説明いたします。

協議会は、地域の課題解決や発展に関することを話し合う組織です。協議会そのものは、事業の実施をするのではなく、地域課題についての調査・研究をし、安心して暮らすことのできる地域にするための話し合いをします。そして、話し合った結果を計画性をもって実行していくために、地域づくり計画を策定します。本年度は第3次5カ年計画の策定に着手します。

次に、協議会の組織構成についてですが、協議会には、町内会連合会をはじめとした、地域を拠点にして活動している13の地域団体が所属しています。これを会員団体といいます。

会長、副会長、会員団体の代表者(理事)で組織する「理事会」、理事会及び会員団体から推薦された代議員で組織し、地域づくりに関する重要事項を決定する「総会」、会計監査を担当する「監事」、円滑な協議会運営を担当する「事務局」、会員団体および白石地区住民で組織し、地域の課題を取り上げ、解決策を協議する4つの「専門部会」(総務部会、地域福祉部会、地域振興部会、社会体育部会)と各事業計画の内容がより効果の高い事業となるよう検討する「検討委員会」(総務部会に併設)で構成されています。

ここでもっとも大切なことは、「地域住民同士のさまざまな話し合いの中で、地域が自分で考えて自分で判断する」ということです。

「みんなでつくる住みよいまち・白石」をテーマに住みよさナンバーワン地域の実現を目指して、皆様方のお知恵をお借りしながら、着実に歩んでまいりたいと思いますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



会長 内山 清輝

グラウンドゴルフ新入会員募集!!

地域住民の健康増進および住民同士の絆や連帯感を育むコミュニケーションの場として今年度もグラウンドゴルフ新入会員を募集します。道具は用意していますので運動のできる服装でお時間のある時にお越し下さい。皆様のお越しをお待ちしております。

練習日時：毎週水曜日 9:00~

練習場所：亀山ふれあい公園

申込先：白石地区地域づくり協議会(TEL 941-5959)



初心者大歓迎



名称変更のお知らせ

「明治維新150年記念事業実行委員会」を「白石歴史探訪の会」と変えて今後も活動を継続します。白石の歴史に興味がある方は、ぜひ一緒に活動いたしましょう。

白石地区地域づくり協議会(TEL 941-5959)

白石歴史探訪の会

「年代別の白石地区の歴史」講演会のお知らせ

参加無料
学生さんも大歓迎!

開催日	演題	講師
6月8日(土)13:30~	白石地区を歩く~皇政復古70年記念山口史蹟図~	松前了嗣氏
10月19日(土)13:30~	小ナポレオン山田顕義	小山良昌氏
12月14日(土)13:30~	初代山口県令中野梧一~旧幕臣 波瀾の生涯~	松前了嗣氏
2020年1月18日(土)13:30~	長州の西郷又は、維新の十傑:広沢真臣	小山良昌氏

最終回 萩往還と石州街道 ～志士たちが駆け抜けた道～

文久3年(1863)4月16日、長州藩は、藩主・毛利敬親の英断によって、政治の中心地を萩から山口へと移しました。世にいう「山口移鎮」です。敬親は、中河原の山口御茶屋(現・CS赤れんが一带)に入ると、そこに政務を執り行うための政事堂を置きました。

6月、萩で隠棲生活を送っていた高杉晋作が、藩主の命により政事堂へと呼び出されます。そこで彼は「奇兵隊創設案」を建言すると、山口から下関へと走り、白石正一郎邸において奇兵隊を結成したのです。

翌元治元年(1864)、この年は、長州藩にとって苦難の年となりました。6月5日、京都の旅籠・池田屋で起きた「池田屋事件」。7月19日、同じく京都で起きた「禁門の変」。そして「第一次長州征討」「4国艦隊下関砲撃事件」。長州藩は絶体絶命の危機を迎えていました。

藩内に不穏な空気が漂う中、6月25日、留学先のロンドンから急ぎよ帰国した井上馨と伊藤博文が、富海(防府市)から三田尻を経て山口へ入りました。彼らは、攘夷の無謀さを説き、開国論を主張。過激な攘夷派に命を狙われながらも、決してひるむことはありませんでした。

9月25日、政事堂では幕府が攻めてきた際には徹底抗戦するという「武備恭順」を主張する改革派と、藩の存続のため、幕府に対しては「謝罪恭順」の姿勢を示そうという保守派の政府員が集まり、御前会議が開かれ、激論が飛び交いました。

そこで藩主は、馨が唱える「武備恭順」の方針を取ることを決めました。

ところが、その日の夜、御前会議を終え、帰宅途中の馨が、袖解橋付近において、圓龍寺や平蓮寺(廃寺)などを屯所としていた保守派の壮士数名によって襲撃され、重傷を負ったのです。

さらには、翌26日、相次ぐ情勢の悪化により追い込まれた、改革派のリーダー・周布政之助が自刃。その後は、保守派が藩政の実権を握り、それまで萩を根拠地としていた保守派の政府員が続々と山口へ移動、町は保守派一色となっていったのです。

こうした中、12月15日には改革派の挽回を図ろうとする高杉晋作が長府功山寺で決起。その後、奇兵隊をはじめとする諸隊も呼応。保守派の萩政府軍と激突すると、翌慶応元年(1865)には、山口の長寿寺に続々と有志が終結し、井上馨を総督とする鴻城軍が結成されたのです。

こうして、晋作や馨を中心とする改革派は兵を進め、萩政府軍を退け政権を奪取したのです。

萩と三田尻とを結ぶ「萩往還」。小郡と石見国を結ぶ「石州街道」。彼らは、常にこの道から新たな時代に向かって、その一步を踏み出しました。

そして、このふたつの旧街道は、今もなお、時代の移り変わりを、しずかに見守り続けています。



萩往還(左)と石州街道(右)(米屋町)

コラム終了

この度、明治維新150年記念事業の終了に伴い、平成26年6月1日号より連載させていただきましたコラム「維新の策源地、山口を歩いてみよういね!」は、本編での掲載が最終回となりました。

5年近くに渡りご愛読いただきまして、誠にありがとうございました。

次回新連載スタート

次回からは新連載「皇政復古70年記念 山口史蹟図でまちを歩いてみよういね!」がスタートします!

山口市内に残る、まだまだあまり知られていない明治維新関連の史跡、逸話などをご紹介させていただきたいと思っております。

引き続きご愛読いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

さらに

「維新の策源地、山口」を歩いてみよういね!の冊子化予定!!

全58回にわたる連載を編集し、冊子を作成する予定です。